



### 6年生に「夢をかなえる」授業

桐原小学校6年生76人が、「アスパラ先生」こと赤田隆太さんから公開レッスンを受けました。

赤田さんは、ダンススタジオなどを経営しており、「趣味を仕事」にしているそうです。夢を叶えるために必要なことは、夢について勉強する、夢をやり続ける、そして「考えて行動する」考動力「がめっちゃ大事やで！」とメッセージ。できないと思って、「ムリ」と決めつけず、「難しい」に置き換えてチャレンジしようと話しました。

講演の後は、体育館に移動してダンスレッスン。「ナイス！」とほめ合い40分がかっこいいダンスを覚えました。

赤田さんは、たくさんの夢を持ち続け、夢の選択肢を増やすこと。夢を追う人を応援しているよ、と中学生になる子どもたちにエールを送ってくれました。



## メンバー募集

私たちと一緒に市の魅力を発信しませんか？

赤こんリポーター Facebookページ



市民目線で、地域の魅力やイベントの取材情報などを、市広報紙などの広報媒体にご紹介いただく、令和3年度の市民広報リポーター〔愛称：赤こんリポーター〕を募集します。応募期間は3月31日(水)までです。応募条件など詳しくは市ホームページをご覧ください。

申・問 秘書広報課 TEL (36)5526・FAX (32)2695 HP 12634



### 親子の居場所でほっこり

子育て支援センター「クレヨン」による「遊びの出前」が1月18日、市民共生センターで行われました。この「遊びの出前」は、同センターの先生たちがたくさんのおもちゃを持って来てくださるというもの。お家にはないおもちゃや広いスペースでのびのび遊ぶお子さんも、そばにいるお母さんたちも笑顔に。最後はわらべ歌遊びをして「さようなら〜!」。行く場所が限られている中、「今日は子どもとどうやって過ごす?」と考えている親御さんも多いはず。そんな時に地域でこうした居場所があることは本当にありがたいなあと感じました。



### だれもが安心して暮らせるまちへ

金田小学校4年生が2月1日と8日に「高齢になっても安心して暮らせるまちってどんなまち?」と題して高齢者疑似体験を行いました。高齢者だけでなくさまざまな人が住む中で、だれもが安心して暮らせるまちになるように思いやりを大切にしていきたいと学習しました。

子どもたちは、高齢者疑似体験をするためのグッズを身につけ、普段の生活で行うことに挑戦し、高齢者になるってどんなことなのか、気付いたことから自分にできることはどんなことかを考えました。終了後、「指が動かすのが難しかった」「こまかい作業がしづらい」「できることをお手伝いしていきたい」など元気に感想を発表しました。



### 郷土料理を黙食でいただきまーす

明治時代に山形県のお寺で貧しい児童に昼食を提供したのが始まりとされる学校給食にちなんで実施される学校給食週間の期間中、市内の市立小・中学校などでは、調理員さん自慢の献立や郷土の豊富な食材を使った料理がふるまわれました。この日、武佐小学校でも1年生の子どもたちが、近江牛・信長ねぎの牛丼、あげれんこん、うち豆汁に静かに舌鼓を打っていました。



### もぎたてイチゴに大満足

武佐学区まちづくり協議会がコロナ禍に負けず、地域で頑張っているお店を応援するイベントを開催し、「イチゴハウス フルーミング」(野田町)で15組30人の親子がイチゴ狩りを楽しみました。農園を運営する同町の中井勝利さんは会社員を経てイチゴ農家に転身し、今季初めての収穫時期となりました。当日は晴天に恵まれ、子どもたちは鈴なりになったイチゴに大はしゃぎ。もぎたてのイチゴをおいしそうに頬張っていました。

圓山舜朗ちゃん(1歳半)は、「イチゴ!」と興奮した様子。お母さんの早紀さんは「息子はイチゴが大好きで、農園でたくさんなっているのを初めて見て目を輝かせていっぱい食べていました」と話していました。



### 「輝け!八中」がカガヤク7777号

1984年5月の創刊以来、学校の休日以外は1日も休まず発行している八幡中学校の日刊生徒会新聞「輝け!八中みんなの学校」が、7777号を迎えました。校内の良い事も悪い事もみんなで情報を共有することからスタートし現在25人の生徒会執行部全員が1人1号ずつ紙面制作を交替で担当。今回は特別号として生徒会長の森陽紀さんと書記の檜山和さんの2人が編集。2人は「良い学校の伝統を次の世代につないでいきたい」、「歴史のある新聞の作成にたずさわられてうれしい」と話していました。



### コロナ差別をなくそう 橋本さんが手作りシトラスリボンを桐原小学校に寄贈

感染者や医療従事者などへのコロナ差別をなくそうと愛媛から始まったシトラスリボン運動を子どもたちに取り組んでもらえればと中小森町の橋本順子さんが、黄色いモールなどで手作りにしたリボン605個を桐原小学校にプレゼントしました。贈呈式では、6年生の大黒莉空さんと井上木暖さんの2人が全校児童を代表してリボンを受け取り「リボンをきっかけに差別をなくす運動をもっと多くの人に広げたい」などと話していました。